

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 20 No 2

223号

平成24年 2月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

小児科医との上手なつき合い方

院長

子どもを持つ親が、小児科とのかかわり合いで悩むことはしばしばでしょう。今回は、小児科医とのつき合いについて考えてみましょう。

▶かかり方の基本

最初に覚えてもらいたいことがあります。病院は患者のため、小児科では子どものために受診するということを理解してほしいのです。当たり前聞こえるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。簡単に情報が得られるようになったこと、また親は子どもを心配するあまり、先入観を持ち勝手に病名まで決めて小児科を受診することがあります。先入観は、時として医師とのコミュニケーションの妨げになることがあります。まず大事なことは先入観を持たずに受診することです。

▶かかる時の注意

まだ話をしたり、説明したりできない子どもの情報は、親から得るしかありません。病気の診断のためには、経過や状況の把握が不可欠なので、時には医師はくわしいことまで要求することもあります。例えば、周囲(集団生活や家族)での病気の流行状況。現病歴(病気の経過)として、熱ならいつから出て、どんな推移(夜だけ出る、一日中など)なのか。せきなら、種類(たんがからむなど)、程度(せきこんで吐く、夜眠れないなど)。下痢なら、回数、程度(軟便か、水様便か、血液が混じるかなど)です。このような情報だけでも診断が可能な病気は少なくありません。診断の重要な要素ですから、症状を覚えておくだけでなく、症状や経過については、メモを残しておくといいでしょ。

また、母親以外の人が連れてきた場合の注意が1つあります。特にお父さん父親の場合では、「いつから、どんな症状なのか」と尋ねても、「さあ？」としか答えられないこともあります。ぜひとも症状を伝えるだけでなくメモを渡す習慣を持ちましょう。そして、解熱剤などの薬剤の不足分などは必ず

把握してから受診するようにしてください。

▶小児科開業医の役割

小児科の役割はさまざまですが、第一に知ってほしいことは子どもの相談窓口ということです。「目やにが出た」、「耳を痛がる」、「夜泣きがひどい」など、何科にかかったらよいのか迷います。そんな時や、専門の病院を紹介してもらいたい時などの相談でも小児科開業医を受診してかまいません。小児科医の立場でできることは対応し、別の医師の対応が必要な時は紹介する。それも小児科の大切な役割、つまり子どもの病気の総合窓口なのです。

子育て中は、心配なことは病気だけとは限りません。育児や栄養、しつけなど、心配なこと不安なことは、なんでも気軽に相談してください。

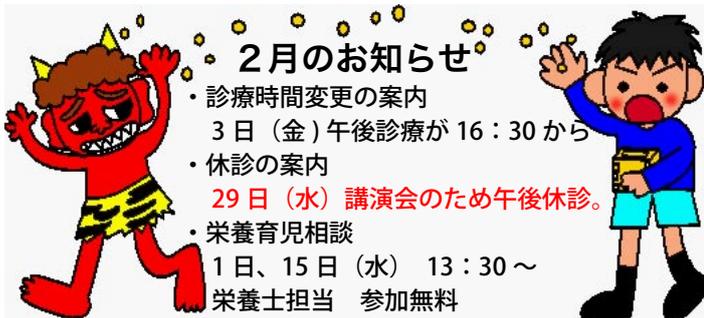
病気の子どもにとって、不安や心配など親の精神的状態は、いろいろな意味で影響を与えます。ですから小児科医は「お母さんの不安・心配の解消」をモットーに、子どもに悪影響を与えるものを取り除くのも役割です。余裕を持って子どもを観察し、適切な対応ができるように、安心を与えることが小児科医の使命と考えています。

かかりつけ医とは

かかりつけ医とは、よく診てもらってる医師という意味だけではありません。病気の背景にあるものまで把握して、子どもだけでなく親のケアまでしてくれる、それがかかりつけ医と考えています。かかりつけ医を見つけるためには、コミュニケーションが重要な要素です。何でも聞け、お互いの考えを受け入れることができる関係です。先入観について書きましたが、先入観を持ちすぎると相手の考えを肯定しにくくなります。今の親御さんのよい医師の条件には、“患者の言うことを何でも聞いてくれる”があります。それを否定するつもりはありませんが患者は子どもです。やはり小児科医は“お母さんのいうこと”より、“子どもに必要なこと”が重要と考えています。お互いの気持ちを受け入れることができるのが“かかりつけ医”であり、“かかりつけ患者”ではないでしょうか。互いの立場を尊重し、何でも聞ける関係を築きあげていきたいものです。



(少年写真新聞「ほけんニュース」掲載予定原稿)



2月のお知らせ

- ・診療時間変更の案内
3日(金)午後診療が16:30から
- ・休診の案内
29日(水)講演会のため午後休診。
- ・栄養育児相談
1日、15日(水) 13:30~
栄養士担当 参加無料

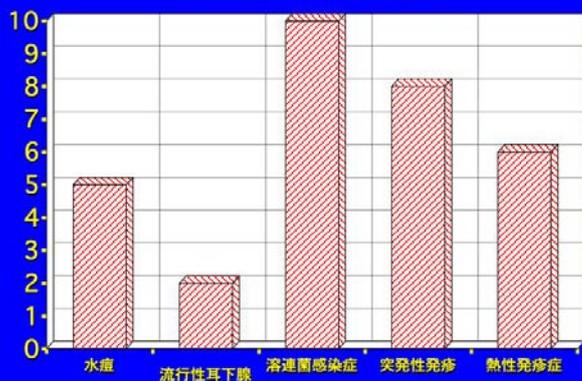
『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は1月ということもあり、少なめでしたが11通のメールを頂きました。最初はちょっと時機を失した感がありますが、お母さんクラブ会員の松橋さんから頂いた「クリスマス会」の印象記を紹介します。「毎年楽しみにしている『クリスマス会』今年も震災もあり「おかあさんクラブ」自体がどうなるのか心配にもなりましたが、今年も変わらず川村先生や看護師の皆さん、薬局のお姉さん方、会員の皆さんと楽しい一時を過ごせた事がとても嬉しかったです。ビンゴをしたり、看護師さん・薬局のお姉さんの出し物、有志で毎年踊ってくれるお子さん達の“マルモリダンス”そして、ピロロで活動している佐藤さんの唄や踊りなど、子どもから大人まで楽しめる内容が盛り沢山で、その後に皆で頂いたデザートも美味しく頂き、2時間があっという間に過ぎてしまいました。プレゼントも沢山頂き、子ども達の目は終始キラキラと輝いていて本当に嬉しかったです(^-^)。これも、お忙しいなか準備をしてくれたスタッフの皆さんのおかげです！皆さん本当にありがとうございました！また来年も宜しく願います(*^_^*)。参加した皆さんに喜んでもらいスタッフ一同うれしい限りです。来年のクリスマス会だけでなく、「お母さんクラブ」も期待してください。続いては米国赴任中の渡辺さんから。「明けましておめでとうございます。年が明け前にお礼を申し上げたかったのですが、すっかり遅くなってしまい申し訳ございません。お忙しいところご返信いただき本当にありがとうございました。私にとって息子を産んだ年が今まで生きてきた中で最も印象深い年になるだろうと思っていたのですが、2011年はそれを超える印象深い年となりました。3月の震災に始まり、9月の渡米まで息つく暇もありませんでした。もちろん、こちらに来てからもなかなか落ち着きませんでした。3月の震災時にはこれからどうなるだろうと不安ばかりが募っていたところ、先生からのメールが配信されるようになり、本当に心励まされました。ライフラインが整わないだけでなく、原発に対する不安も大きかったのですが、専門的な見地から冷静なメールが送られてくるのを読むたび、ああ、大丈夫なんだ!!と安心することができました。震災後すぐに診察を再開していただけたのもとてもありがたかったです。先生はもちろんのこと、ご自宅に帰れないまま病院業務に携わっていらっしゃるスタッフの方々にも頭が下がる思いでしたし、同時にその姿勢に励まされました。今年ももう少し落ち着いて生活できればと思っています。先生やスタッフの皆様にとりまして素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。」。ありがとうございました。震災、その後の渡米で大きく環境が変わって、慣れない環境での子育ては大変なことだと思います。いつまでも、どこへ行ってもかかりつけ患者さんとの関係に変わりありません。「お母さんの不安・心配の解消」の理念で、お手伝いを続けたいと思います。困ったことがあれば何なりと相談してください。次は7年ぐらい前に北海道に転居した今村さんからのメールです。震災直後にお見舞いのメールも頂きました。「ご無沙汰しております。北海道の今村哲世の母です。先生、お変わりございませんか？昨年12月に主人が茨城県の鹿嶋に転勤になり、哲世君の希望で家族で鹿嶋に引越すことにしました。今、哲世君と私は苫小牧にいます。来月半ばに鹿嶋に行きます。そんなわけで哲世君は鹿嶋の高校を先週、受験に行きお陰様で今日、合格の通知を頂きました。m(_)_m。先生にお世話になっておりました小さかった哲世君がこの春、高校生にならせて頂きます。今、身長156cm、体重は45kgくらいです。すっかり声も変わり男の子です。お陰様で丈夫な体にならせて頂き元気いっぱいです。お世話になっていた頃を懐かしく思います。先生にも哲世君の合格をお知らせしたくてメールしてしまいましたm(_)_m。先生もお体、気をつけてくださいね!」。内容だけでなく、最後の一言うれしいですね。“いつでもかかりつけの患者さん”を証明するようなメールです。本当に皆さんのおかげで、素晴らしい関係を保つことができます。このような患者さんがいるからこそ、自信を持って一面記事が書けるのです。これからも“理想的なかかりつけ医とかかりつけ患者さんの関係”を築き上げる努力を続けるつもりです。本当にありがとうございます。



1月の感染症の集計



水痘はかなり減少しています。溶連菌感染症は横ばいで少し多くみられています。グラフには示していませんが感染性胃腸炎はかなり減少、インフルエンザは年明けにはかなり減少しましたが、再び増加傾向ですが年未ほどの流行はありません。しかし、A型に加えてB型も混在し、インフルエンザ流行に関しては予断が許せない状況です。

来月半ばに鹿嶋に行きます。そんなわけで哲世君は鹿嶋の高校を先週、受験に行きお陰様で今日、合格の通知を頂きました。m(_)_m。先生にお世話になっておりました小さかった哲世君がこの春、高校生にならせて頂きます。今、身長156cm、体重は45kgくらいです。すっかり声も変わり男の子です。お陰様で丈夫な体にならせて頂き元気いっぱいです。お世話になっていた頃を懐かしく思います。先生にも哲世君の合格をお知らせしたくてメールしてしまいましたm(_)_m。先生もお体、気をつけてくださいね!」。内容だけでなく、最後の一言うれしいですね。“いつでもかかりつけの患者さん”を証明するようなメールです。本当に皆さんのおかげで、素晴らしい関係を保つことができます。このような患者さんがいるからこそ、自信を持って一面記事が書けるのです。これからも“理想的なかかりつけ医とかかりつけ患者さんの関係”を築き上げる努力を続けるつもりです。本当にありがとうございます。

子ども医療費助成に関して

H24年1月から助成年齢が拡大されました。それに伴い、一部負担金が徴収されます。負担が増えますが、多くの子どもたちが恩恵を受けることになります。お子さんの未来への投資と考えてご理解をお願いします。詳しくは院内掲示を。

一部負担金(通院)は、次の通りです。

- 3歳未満 負担なし(従来通り)
 - 3歳から小学3年生まで 初診時500円
- よろしくご理解をお願いいたします。

編集後記

年明けはかなり患者さんも少なく、余裕を持っていましたが、再びインフルエンザの流行が拡大しています。仙台では年未がピークでしたが、全国的にはまだ拡大傾向です。

今回の一面記事は題名が決められた依頼原稿ですが、患者さんから貰うメールが原稿の内容の証です。本当に、多くの患者さんに支えてもらっていることが、大きな力になっています。



Mail News, Twitter, Blog の紹介

Mail News は、震災を切っ掛けに375人を越えるお母さんが登録しています。右上のバーコードから「登録希望」と登録者、お子さんの名前を送信してください。携帯用HP(左のバーコード)でMail NewsとTwitterも読めます。両方で情報を提供していました。Blog(右下バーコード)では、東日本大震災の取組み・活動、放射能やワクチンの話題を提供しています。是非お読みください!



『お母さんクラブ』は、9月から再開しました。楽しいことも大切です。是非ご参加を!!

震災でのクリニックの対応・院長の取組み・患者さんからのメール・被災状況は、Blog「こどもクリニック四方山話」で!!